

大津市内の児童クラブ保護者会からなる「大津市学童保育(児童クラブ)連絡協議会」発行

No.6 - 2014. 9月 -

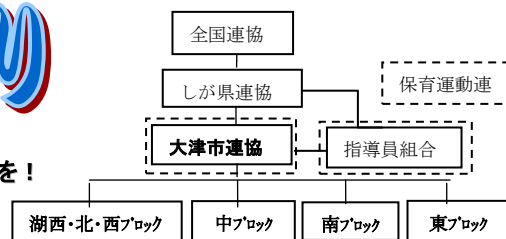
南連協だより

スローガン：子どもたちに豊かな放課後を！

otsu_gakudo@yahoo.co.jp

FAX：050-3383-4672

http://gakudo-shiga-otsu.jimdo.com/



8月予定から変更

9/29(月) 19時～ 児童クラブ課懇談会

大津市役所 新館 7階大会議室

19時以降は、守衛室側からしか入れません(駅から市役所向かって左端)。

各クラブよりご参加ください。(保護者会会長、市連協ご担当)

子ども達が楽しい放課後を過ごせるよう、有意義な懇談会にしましょう。

スポーツ交流会と重なったため 再び変更

11/9(日) 第2回 市連代表者会議

10時～12時半 浜大津明日都ふれあいプラザ4F 大会議室

※10/26→10/25 から再度変更しました。お詫び申し上げます。

知っ得ミニセミナーつきです！

「働きながら子育て と メンタルヘルス」

『日本の学童ほいく』 7月号特集 感想

テーマ

「子供のけんか 学び場としての子供のいざこざ」～社会性の発達の見点から～

子をもつ親としては、誰も子供のいざこざは避けて通りたいものですが、子供の成長にとって、それは社会性の発達という観点からすると、とても貴重な体験となり得るということが、わかりやすく書かれていました。

- ① 自分と他人では、物事の視点や欲求が異なるという事を体験することで、自己の視点と他者の視点を分けてとらえ、他者の視点に立てるようになること。
- ② いざこざを通じてその解決のための手法や、相手の出方に応じて臨機応変に対応できる力を身につけるうえでは、子供同士のやりとりにおいてこそ体験的に身につけていくものであること。
- ③ 自分や周りで起こる怒りや悲しみの感情を直接的・間接的に経験することで意思表示や周りへの警告・牽制など、その感情の性質や働きについて学べること。

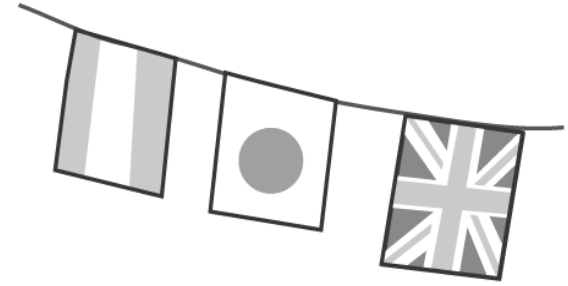
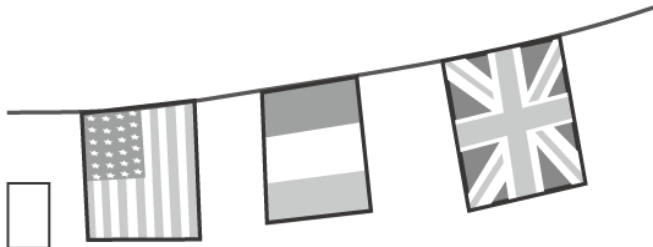
このように子供のいざこざは、体験的に社会性を学ぶ場として捉えることができます。ただ、大事なことは、真に学びの場となるには周りの大人からの適切な配慮や対応が不可欠だということです。まずは大人がそのことをよく理解し、子供たちのやりとりを見守りながら、適切にフォローできる関係・環境づくりをしていかなければならないと感じました。

(仰木の里東児童クラブ)

《2014年度 予定》 保護者会代表者会議 & ブロック会議(11/9日、3月)、児童クラブ課懇談会(9/29月)、全国学童保育研究集会(岩手県10/11、12)、大津市保育運動連絡会(未定)、大津っこまつり実行委員会(9/30、11月、1月、3月、4月、当日5/17)、滋賀県学童保育研究集会(栗東12/7)、県連学保誌担当会議(未定)、県連研究集会担当会議(9/24、11/12、当日、1/28)、県連会計監査(3月)

♪♪ 編集後記 ♪♪

2学期が始まったかと思えば、子供たちは運動会に向けて連日の練習、行事ごとも多い時期で、ご家庭ではあわただしい日々を過ごされておられると思います。そんななか、気が付くと朝夕は薄着では肌寒いほどの気温になり、忙しい毎日の中にも季節の移り変わりを感じます。(広報 仰木の里東児童クラブ)



「日本の学童ほいく」の購読申込み、お待ちしております！

春に入所したお家では、慣れた頃の今、悩みも出てきていますよね・・・。

そんなとき手に取ると支えてくれる本です！ 保護者会で新1年生に1冊プレゼントはいかがでしょう？

私が購読をしようと思ったきっかけは、役員になったのに、あまりに児童クラブについて、何も知らないと感じたからでした。そもそも、役員になるまでは、児童クラブについて無関心とも言える状況だったと、いま思うと恥ずかしくも感じるほどです。

学保誌の中には、全国の保護者の声、役員の声、指導員の先生方の声、そして、子供達の声が目一杯につまっていました。実際に読んでみて、役員になって知りたいなと思っていたこと、保護者なのに知らなかったことをまとめ買いしたような気持ちになりました。

仕事と家事に追われる日々ですが、学保誌を読むだけで、子供について考えるよい時間になるような気がします。

子供の通うクラブの指導員の先生が、書いておられるページも発見して、全国誌ではありますが、とても身近に感じることができました。

瀬田南児童クラブ

●●コラム●●

「こんにちは～！」ってわりと大きな声でクラブの玄関先で呼んだんですけど、

私の声は蝉の鳴き声と子ども達の元気な声にかき消されてしまいました。。

いえ、これは先月のお話なんですけど、何箇所かのクラブにニュースをお届けに行った時のことです。ちょうどおやつ時間だったようで、子どもたちは楽しそうにお喋りしながらおやつを食べていました。その姿をやさしく見守りながら指導員さん達がお世話をされていたのですが、首にはタオルを巻かれていて汗をふきながら…

エアコンうはあるとはいえ、夏休みの大所帯ですから一般宅とは違いますよね。

また違うクラブでは、外で元気に子ども達と一緒に遊んでいる指導員さんを見かけました。転がったボールを追いかけて全力で走る姿は子ども達に負けにくいくらい元気でした。それを見た私はやけに感動してしまって。あとで聞いた話ですが、今年の夏休みだけの入所児童が“869人”いたそうで全体の36%をしめたそうです。

あるクラブでは夏休みだけの入所児童で2倍になったとか。通年入所児童と夏休み入所をあわせると約“3400人”近い子どもがこの夏、学童保育に通ったわけです。子ども達も限られた敷地内で遊ぶの大変だったと思いますが、指導員さん達には「この夏はお疲れさまでした」と心から感謝したいです。

事務局員 鈴木

